

きじむんのとう〜ちゅいむに〜 十二支編

第11回：卯

キーワード：卯・兔（うさぎ）・うさぎとかめ・アマミノクロウサギ

ハイタイ&ハイサイ キジムンヤイベーン！寒い日が続きますが、かぜをひかないようにね！

今月は十二支の第4番目に登場する卯(う)についてのお話です。卯といえば時刻は午前5～7時頃、方角では東にあたります。ところで卯の字の「う」は訓読み、音読みは「ボウ」で、「しげる」「おおう」などの意味があるそう。「兔」は動物のうさぎを表します。

さて、みなさんがよく知っているうさぎとかめの話、沖縄では、こんな風に語り継がれています…

●うさぎとかめ

ある日、うさぎとかめが小山のてっぺんからかけっこをすることになりました。

「よーい、どん！」の合図でうさぎはぴょんぴょん跳ねだしました。ところがかめは、手足や頭、しっぽを甲羅の中に全部かくし、転がりだしました。うさぎは、ゴールめざして必死に跳ねましたが、転がるだけのかめに、とうとう負けてしまいました。

負けたうさぎは、勝ったかめに、「手足や頭、しっぽを全部甲羅にかくす、六つ隠し者(むつかくしもの)」と言いました。

むずかしいもの(=むつかくしもの)という言葉は、ここからうまれたそうです。



日本全国で知られるうさぎとかめの話では、足の速いうさぎが油断したため、コツコツ戦ったかめに負けた、という内容 ①
になっていますが、沖縄版うさぎとかめでは、賢いかめにうさぎが負けるといストーリーになっています。

この話は、画像①の絵本に収録されていますよ！

●アマミノクロウサギ②

アマミノクロウサギは、1属1種の固有種で、たいへん珍しいうさぎです。生息地は、奄美大島と徳之島の2島のみで、「生きた化石」と言われています。

体の特徴は黒褐色の毛でおおわれ、小さな耳をもっています。体長は飼育されているうさぎと大体同じくらいですが、ずんぐりした体つきで手足が短いです。また、前足の爪が普通のうさぎより発達していて、穴掘りに向いています。夜行性の動物です。

2003年頃までの生息数は、奄美大島・徳之島、合わせて4000匹とされていました。しかしその後、マングース、ノイヌやネコによる捕食、交通事故による死亡などの理由で生息数の減少が激しく、現在では絶滅危惧種に指定されています。



②国指定天然記念物 アマミノクロウサギ(剥製)

今月のお話はこれでおしまい！来月は辰(たつ)の話です。楽しみにね～♪(NK)

【参考資料】沖縄市立郷土博物館編『むかしばなし』沖縄市文化財啓発資料第2集P30(沖縄市教育委員会 1994)/鹿児島県環境生活部環境保護課編『鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編』P20(鹿児島県環境技術協会 2003)/常田守『水が育む島 奄美大島』PP88-89(文一総合出版 2001)

【画像②】『奄美大島南部 ～歴史・文化・自然を知るなら～ 瀬戸内町立郷土館』施設案内パンフレットより